

地域と共生・共同、地域に根ざした学校作り

奈良県

活動名

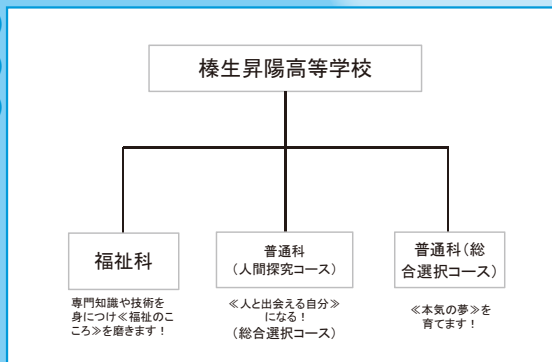
奈良県立榛生昇陽高等学校

関係する学校名

榛生昇陽高等学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	地域未来塾	1人	1人	0人	無	28年度	有	無	無
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	実施場所		学習支援			放課後児童クラブとの連携			
	土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	コミュニティ・スクール	指定日				委員数	児童生徒数	学級数	

体制図



活動の概要・経緯 本校は奈良県の北東部山間部に位置し、統合もあったが創立90年を超え、長年地域に愛されている全校生徒約600名の小さな高校である。教育課程は、福祉科・普通科（人間探究コース・総合選択コース）から成り立ち、それぞれ独自の学習を展開している。学校の位置する宇陀市は昨年市制10周年を迎えたが、過疎・高齢化という問題に少なからず直面し、様々な行事において人手が足りなくなっているのが実情である。地域における様々な伝統行事・イベントにおいて、本校がボランティアの活動範囲を拡大していくことが、地域との共生・共同に対して大きなベクトルになっている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

本校の特色を効果的に活用し、地域の要望と直結出来る内容に応じて様々なボランティアを展開している。その中身は、地域の抱える問題にストレートに繋がりがやすく、活動も多岐にわたる。福祉科においては、市内にある福祉施設を定期的に訪問し様々な支援活動を実施している。人間探究コースにおいては、市内の保育所・幼稚園を定期的に訪問し交流を深め、子供が参加する行事には運営スタッフとして参加している。また生徒会も、地域の行事やイベントに運営から協力し連携・協働を深めている。

【実施に当たっての工夫】

基本的な考え方として、学校と地域がお互いにプラスになるような活動を目指している。本校生徒が、地域に様々なボランティアを展開することによって、地域の願いを単に叶えるだけでなく学校は地域から学び、地域は学校に愛着を持ち、それぞれが共生でき新たな活性化を生む。それぞれの活動では、事前に地域とコミュニケーションをとり、「何がどれだけ必要か、実施することでどれだけ教育効果はあるのか」を明確にしていく。例年あることでも参加する生徒は変化するが、活動は極力マンネリ化は避けいろんな方向性を模索しながら展開するようにしている。

● 事業を実施しての効果・成果

年間の取組は、大きなもので30を超え、今や本校の取組は地域のルーティンになりつつある。「少子高齢化」の一つのバイオニアになればと考えている。地域が元気になることは本校の活性化に繋がるということを肌で感じる事が出来た。生徒たちを様々なボランティア活動を通して「地域の応援団」として位置付け、その活動は市内全体に輪が広がり、町ぐるみで学校を支援しようとする機運が広まっている。



地域のお祭りボランティア



福祉科の生徒によるハンドケア体験